

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット1階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	令和元年6月17日	評価結果確定日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和元年7月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く、交通の便の良い住宅街に立地し、地域の学校や保育園との交流もご入居者の楽しみの一つです。経営者が割烹をしていた経験から、食事やおやつは手作りし、旬の食材を取り入れ、栄養管理を行い、陶器の食器を使用して盛り付けにも心配りしています。ちゃんぽん、血うどん、天ぷら、茶碗蒸しや季節毎の行事食はご入居者からも喜ばれています。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、ご入居者やご家族が安心して、適切な医療を受けられるよう支援しています。ご入居者も野菜の皮むきや盛り付け、洗濯物たたみ等、持っている力を活かして参加され、ご入居者同士で支え合い、笑顔で暮らしておられます。職員一同、明るく家庭的な雰囲気を大切にして、ご入居者お一人おひとりを尊重した介護に努め、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ヶ月に1回、運営推進会議後に家族会が開催され、家族のみで話し合う機会を設けている。家族会の代表は、快く役を引き受けているとのことで、ホーム側と家族との良好な関係が伺える。介護計画は、ケアチェック表から課題を表出し、本人の意向を汲むという、計画、実行、評価、改善のサイクルできちんと回っている。かかりつけ医は、1階と2階、別々のかかりつけ医だが、よく連携がとれており、24時間対応をしてくれているのは、安心できる体勢である。また、9つの委員会と研修があり、チェックシートを全て振り返り、打ち合わせを行うという仕組みが構築されていた。職員からは、管理者へ意見がしやすい環境であり、風通しのいい職場であると感じた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「心穏やかな暮らしつまでも」の理念を唱和し、念頭において介護させて頂いています。ご入居者やご家族にも見える場所に理念を掲示し、共感を頂いています。年に1度は全職員で理念を確認しています。	理念をもとに、職員はご入居者が、安心して居心地よく暮らせるよう、職員間の連携を大事にしている。理念は、ホーム内に掲示しており、ご入居者からは「とてもいい理念」という感想とのことである。	理念を掲げているが、もっと理念のもとになるものを考え直すとのことで、現在進行中である。職員一人一人に、アンケートを実施するまで行っているため、今後理念のもとになるのが作成されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方が声を掛けて下さいます。近隣の保育園、中高生、専門学校生等の訪問があり、交流を楽しみにされています。入居後も近所の方や友人との交流が続けられる様、支援しています。	冬場を除き、近くの保育園の園児が毎月訪問し、交流をしている。運営推進会議には、2箇所の自治会長、民生委員が参加され、地域とつながりをもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご入居者の日々の暮らしの様子や介護させて頂く中での気づき、ホームの行事の様子、研修内容の報告等を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ご家族の希望で水曜・土曜交互に開催し、年1回は行事の様子を見て頂く為にクリスマス会と一緒にいきます。暮らしの様子や研修報告等を行い、ご出席の皆様からの意見を活かせるように努めています。	事業所からの一方方向での報告ではなく、自治会や市役所職員からの報告もあり、有意義な運営推進会議内容となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の職員も参加し、ホームの実情や取り組みを伝えて意見を頂いています。介護相談員が年1回ご入居者の話を聴きに来所されます。災害訓練や防犯、事故対応等、随時相談しています。	個別に相談した内容は、重要な場合には、職員へ伝えたり、場合によっては記録に残すようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、2ヶ月毎に検討を行うと共に、年2回社内研修を行い、不適切なケアをしない為に、ホーム独自のチェックシートで自己評価し、日頃の対応を見直しています。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムにて見守りを行っています。	やむを得ず、センターマットを使っているご入居者がいるが、ケアプランに挙げ、必ず家族に同意をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回社内研修を行うと共に外部研修を受講し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、ホーム内で虐待が起こらない様、言葉遣いや対応方法を見直し、虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修を受講して職員間で共有する様にしています。個々の事例については必要に応じて、地域包括センター等の関係者と相談して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して、入居前に説明し、不明な点がないか確認し契約しています。改定についてもご家族に事前に連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの相談や意見は受付記録に記入し、職員間で共有し、事業所として対応する様にしています。2ヶ月に1度の家族会で出された意見や要望を家族会の会長様から聞き、運営に反映するよう努めています。	運営推進会議後に、家族だけの参加での家族会を開催し、そこで出た意見をホーム側で聞くような仕組みをとっている。以前は、クリスマス会などの行事のときにご入居者と一緒の食事をとりたいという意見があり、今は食事が提供されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会、全体会を開催し、代表者と全職員が参加し、現場の問題提起、解決に向けた話し合いを行っています。	職員は、各ユニットの管理者に意見などを行いやすい環境であると聞き取りを行えた。設備に関して、管理者から上長に話をすると、すぐに対応してもらえるとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、職員が交替で担当し、管理者と共に研修内容を考え、実施しています。また外部研修やグループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して支援できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、食事の盛付け、洗濯物たたみ、つわむき、玉葱の皮むき等を職員と一緒に参加して頂き、家庭的な雰囲気の中で、一緒に暮らしを作っていけるような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂ける様、ご家族との連携を密にして、面会時や毎月のかわびら通信の中で、ご本人の思いや日頃の様子、体調の変化等を報告し、一緒にご本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、近所の方の面会時の会話、遠方のご家族との電話、自宅への外出や外食、美容室等、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様、ご家族の協力を得ながら支援しています。	墓参りや、美容室などへは家族が同行をして外出できるようにしている。ホーム側も、要望があれば外出の支援をできる体制ではある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう、ご入居者同士が自由に集える居場所作りをしています。ご入居者同士、声を掛け合い、お世話をしたり、悩み事を相談し合ったりして、お互いの不安が解消されている様です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談には出来る限り応じられるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やケアプラン見直し時にもご本人の思いや困り事等を伺い、毎月のかわびら通信の中にご本人の思いや願いを記入する欄を設け、面会のお願ひ等、ご家族の協力も得ながら支援する様に努めています。	利用者の思いや意向は、日々の支援の中から、特に職員と一緒に食べる食事時の楽しい歓談の中、汲み取ることができる。聞き取った思いは、毎月の全体会・ユニット会で、可能な限り、対応できるように検討している。一人一人の思いは、毎月のかわびら通信の中に記載し、ご家族へも伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や普段の会話、職員間の情報共有、医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプランの見直しの際には担当者がアセスメントを行い、現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェック表にて担当者がアセスメントを行い、ご本人の思い、楽しみ、困り事等を踏まえて原案を作成、職員全員参加のカンファレンスにてご家族の意向を聞き、介護計画を作成しています。	初回面談は、ケアマネと各ユニットの管理者が行い、更新時は担当がモニタリングを行っている。医療面・ADL・整容・心理社会面からなるケアチェック表で課題を見つけて、利用者の意向を汲み、担当職員作成の介護計画の原案でカンファレンスを行ない、介護計画を作成している。その一連の流れが、計画、実行、評価、改善のサイクルに則っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録は、介護計画に沿ってご本人の思いや気付き、体調の変化等の記録を共有し、毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	物品の購入等、ご家族が対応出来ない時は、相談に応じホームで対応したり、ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診やその方に合った福祉用具の紹介等、柔軟な対応に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児が毎月交流会に来所されたり、地域の中高生、専門学校生の訪問による交流も行われています。近所を散歩の際は、自治会の方が整備される花壇を見せて頂いたり、声を掛けて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族に了承を得て、かかりつけ医より往診して頂き、診察の所見は毎月ご家族に郵送し、変化があれば随時電話連絡しています。24時間連絡体制を確保し、適切な医療を受けられる様支援しています。	利用者のご家族の同意のもと、協力医院をかかりつけ医とし、月曜から金曜の往診がある。緊急時には24時間体制で対応している。医師の対応も迅速で、ご家族と病院あるいはホームとの3者間の連携も図っている。密な医療連携は、手厚い看取りにも繋がっている。往診時の所見は、医師所見として毎月かわびら通信と共にご家族へ郵送している。歯科や精神科への受診は、原則ご家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的に来所し、体調の変化等相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。看護師が訪問時の内容を記録後、職員もそれに対する記録を行い連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中は面会や、家族、病院関係者との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて入居時に重要事項説明書等にて説明を行い同意を得ています。重度化した場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合い支援します。職員のこれまでの経験を活かせるよう、マニュアルの改訂を適宜行い、体制作りに取り組んでいます。	看取りに関して、重要事項説明書に指針を載せ同意も得ている。ご家族・主治医・ホームでの話し合い後、看取りに入ると主治医は毎日往診に来て、ホームの介護も生活記録からターミナルケア介護記録へと、支援内容も移行していく。マニュアルの適宜改訂とともに、研修・委員会活動も年間を通して計画され、チェックシートでの自己の振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置し、使用方法や急変時の対応方法についての訓練を行い、すべての職員が実践できるようにしています。急変や事故発生時は、すぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示の下対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年間計画を立て、火災、地震、水害、夜間、防犯を想定した訓練を毎月行っています。総合消防訓練には、消防署、自治会長様にも参加して頂き、運営推進会議でも報告し、地域との協力体制を築いています。また、非常用食料や備品のリストを基に備蓄し、職員全体が把握できるようにしています。	消防・防災計画を作成し訓練も定期的に行っている。秋には消防署の指導の下、総合消防訓練と職員研修としての消火・通報・避難の研修を行っている。冬にはAEDの使い方を訓練し、春には不審者対策の防犯訓練を行っている。都度、運営推進会議で報告をしている。防犯カメラも設置し各ユニットには、当日の人員点呼表を掲載している。備蓄品での非常食体験も行っている。災害時には、ホームを地域の方の避難所として解放することを検討している。	各ユニットに掲示している、避難の非常口の見取り図がわかりづらかったため、初めて訪問した者にもわかるように現在地を含め、矢印等での避難経路の提示を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、プライバシーを尊重した言葉かけや対応について、自己チェックで振り返り、職場全体で取り組みを行っています。パット類は目に付かない様保管し、記録は外部に見られない様保管しています。	年間の研修・委員会活動計画を策定し、『個人情報・プライバシー保護』や『接遇』の研修を行なっている。研修に関しては、事前の打ち合わせから始まり、職員のチェックシートを基に個々の課題を抽出し、実際の事例をもとに研修をしている。基本日々の言葉かけや、入浴・排泄等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の各場面で、ご本人にどうしたいか尋ねながら、無理強いをせず、分かりやすく説明して、意思表示出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等1日の大まかな流れはありますが、お一人おひとりのペースやその日の体調に合わせて、無理なく、なるべくご本人の希望に沿って過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや着慣れた着心地の良い服を聞きながら選んで頂いたり、希望される方は、ご家族と一緒に美容室へ出掛けて、毛染めやパーマ等、おしゃれが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	玉葱の皮むきや盛り付け等一緒にして頂き、季節毎に吊るし柿作りやキュウリ、トマト等プランター野菜の収穫も楽しんでいます。職員も一緒に食事を摂り、食後の歓談等、和やかな食卓になるよう努めています。	食事は野菜中心で、小鉢がいくつも並び量が多く食べれない高齢者の方には、食べやすく箸がすすむ趣向となっている。お手伝いできる利用者には、小鉢の小さな食材を箸でつまんで盛り付けをお願いしている。甘夏もむいて提供するのではなく、利用者自身でむいて食べてもらい、<できることは自分で行う>を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を利用し、1日に必要な水分量を摂取できる様取り組んでいます。水分の摂れない方には、ご家族の協力で好みのジュースを持参して頂いています。個々の状態に合った食事形態で提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の診察を受け専用の歯間ブラシを使用し、出来ない部分を介助しながら食後の口腔ケアを行っています。拒否の強い方は、歯科医に相談したり、声かけや方法を工夫し清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を利用し、時間を見てトイレの声かけや介助を行い、排泄の失敗が減り、トイレで排泄が出来るよう、支援しています。随時紙パンツやパットの汚染を確認し、清潔の保持に努めています。	排泄は、定時トイレの声掛けと誘導を行っている。排泄の記録は、バイタルチェック表や排便チェック表に記載し、利用者一人一人の排泄パターンに応じて支援を行っている。介護計画へ反映するケアチェック表には、尿意・便意の有無や介助内容・排泄用具・下着の種類・失禁・排便習慣・皮膚観察等の項目があり、細かい視点で捉えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかり摂って頂き、整腸作用の為にヤクルト、牛乳を飲まれています。体操や歩行練習、外気浴等で身体を動かして頂き、個々の排便チェック表を付け、便秘にならない様支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分、外出の予定等に応じて曜日や順番を調整し、拒否のある時は声掛けに工夫し気持ちよく入って頂ける様に努めています。脱衣所に冷暖房を設置し、個別のボディソープやシャンプーを使用されています。	入浴は水曜日、土曜日、日曜日をお休みとし、それ以外は毎日提供している。入浴日以外は行事や利用者との触れ合いを主としている。浴室には利用者それぞれのマイシャンプー・リンスが置かれている。拒否があった場合も、意欲がわくようなユニークな冗談で気持ちを和やかにし、誘導している。季節を感じる事ができるように菖蒲湯やゆず湯の提供も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		0 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を勧め、気候に応じて寝具や室温の調節を行い、眠れない方にはお話を聴ききする等、安眠の支援に努めています。食後や入浴後等、その方の希望や状態に応じて、休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬して頂く為、薬局のセット後、職員もチェックし、必要な方は服薬ゼリーを使用し、服薬時は名前や日付を声に出し、飲み込むまで確認を行っています。症状の変化はその都度主治医に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の花見やドライブ、行事を計画したり、塗り絵、散歩、外気浴、踊り、盛り付け、洗濯物たたみ、ツワ剥き等、その方の生活歴や力に合わせて、楽しみや気分転換の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望、天候を見て、外気浴や散歩等、戸外に出られる様努めています。桜、花菖蒲、おくんち、ランタン等、季節毎のドライブや、ご家族と協力して、自宅への外出や外食、美容室等へ出掛けられる様、支援しています。	年間行事計画をもとに、桜の花見・菖蒲ドライブ・紅葉見物ドライブ・等季節に応じて、外出の機会を設けている。ホーム長が自ら運転手をされることも、利用者の楽しみとなっている。天気がいい日には、散歩や玄関前のプランター栽培が大きくなるのを楽しみに見られている。ご家族と自宅へ行かれたり、外食や美容室へ行かれており、ご家族の協力も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はご家族が管理されていますが、その方の希望や力に応じて、ご家族との間できちんと説明がなされており、ご本人が納得の行くように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や親戚、友人等から電話が掛かってきた時、必要に応じて職員が間に入って会話を支援したり、ご家族からの手紙は、ご本人が読めない時は内容を伝える等の支援をしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた塗り絵、作品作りや季節の花を生けています。湿温計を設置しエアコンや床暖房、加湿器等で快適に過ごせる様にしています。居間に大きいテレビやカラオケを設置し、玄関には外気浴用のベンチを設け、花や菜園を楽しんで頂いています。	リフレッシュルームと呼ばれるリビングは、空調管理を行っているが、個々の利用者に合わせ、天井の空調機に羽をつけ直接冷房の風が当たらないような配慮を行なっている。皆で日本の歌をDVDを観ながら合唱したり、平行棒での歩行訓練を行っている。共用部分の清掃は職員が毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂でテレビを観たり、ご入居者同士で談話や悩み事を相談し合ったり、玄関先のベンチに座って外を眺めたり、思い思いに過ごせる居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に好きな本や雑誌等を置いたり、ご家族や大切なペットの写真を貼っておられます。タンスには衣類の表示をし、冬は加湿器、夏は日よけのすだれ等で、居心地よく過ごして頂けるように支援しています。	居室には自宅で使われていた桐の筆筒を置いていたり、大好きな犬の写真を飾っている。入り口の表札は職員と一緒に作った絵である。筆筒には同意を得て、衣類の整理がしやすいように、何が入っているというような大きな文字が貼ってあり、探し物がわかりやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居室には、お一人おひとりの身体状況に合わせて手すりを設置し、ベッドの向きを工夫し、居室の表札や「便所」の表示等、分かりやすく、安全で自立した生活が送れるような環境作りに努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット2階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	令和元年6月17日	評価結果確定日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和元年7月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く、交通の便の良い住宅街に立地し、地域の学校や保育園との交流もご入居者の楽しみの一つです。経営者が割烹をしていた経験から、食事やおやつは手作りし、旬の食材を取り入れ、栄養管理を行い、陶器の食器を使用して盛り付けにも心配りしています。ちゃんぽん、血うどん、天ぷら、茶碗蒸しや季節毎の行事食はご入居者からも喜ばれています。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、ご入居者やご家族が安心して、適切な医療を受けられるよう支援しています。ご入居者も野菜の皮むきや盛り付け、洗濯物たたみ等、持っている力を活かして参加され、ご入居者同士で支え合い、笑顔で暮らしておられます。職員一同、明るく家庭的な雰囲気を大切にして、ご入居者お一人おひとりを尊重した介護に努め、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念を唱和し、念頭において介護させて頂いています。ご入居者やご家族にも見える場所に理念を掲示し、共感を頂いています。年に1度は全職員で理念を確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方と挨拶を交わし、近隣の保育園、学校との交流も楽しみの一つです。運営推進会議では、自治会長様や民生委員様より地域の情報をお聞きし、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご入居者の日々の暮らしの様子や介護させて頂く中での気づき、ホームの行事の様子、研修内容の報告等を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ご家族の希望で水曜・土曜交互に開催し、年1回は行事の様子を見て頂く為にクリスマス会と一緒にいきます。暮らしの様子や研修報告等を行い、ご出席の皆様からの意見を活かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の職員も参加し、ホームの実情や取り組みを伝えて意見を頂いています。介護相談員が年1回ご入居者の話を聴きに来所されます。災害訓練や防犯、事故対応等、随時相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、2ヶ月毎に検討を行うと共に、年2回社内研修を行い、不適切なケアをしない為に、ホーム独自のチェックシートで自己評価し、日頃の対応を見直しています。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムにて見守りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回社内研修を行うと共に外部研修を受講し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、ホーム内で虐待が起こらない様、言葉遣いや対応方法を見直し、虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修を受講して職員間で共有する様にしています。個々の事例については必要に応じて、地域包括センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して、入居前に説明し、不明な点がないか確認し契約しています。改定についてもご家族に事前に連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの相談や意見は受付記録に記入し、職員間で共有し、事業所として対応する様にしています。2ヶ月に1度の家族会で出された意見や要望を家族会の会長様から聞き、運営に反映するよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会、全体会を開催し、代表者と全職員が参加し、現場の問題提起、解決に向けた話し合いを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、職員が交替で担当し、管理者と共に研修内容を考え、実施しています。また外部研修やグループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、盛り付けや食材の下ごしらえ(もやしの根とり・玉葱の皮むき)、洗濯物たたみ等、出来ることは職員と一緒にして頂き、暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に本人を支えて行く関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人等の訪問を歓迎し、訪問が困難な時は電話を掛けて頂いたり、自宅への外出や墓参り等を支援し、これまで大切にしてきた関係が継続できる様、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士、家事の参加やレク等で協力したり、楽しみを共有する事で、家族のような関係を築き、お互い支え合って生活しておられます。必要に応じて職員が間に入り、良い関係を築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談には出来る限り応じられるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や言動から希望や意向を把握し、毎月のかわびら通信の中にご本人の思いを記入する欄を設け、自宅への外出や外食等の希望時は、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や様子、職員間の情報共有や医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプラン見直しの際カンファレンスを行い、職員全員が現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェック表にて担当者がアセスメントを行い、ご本人の思い、楽しみ、困り事等を踏まえて原案を作成、職員全員参加のカンファレンス後、サービス担当者会議でご家族の意向を聞き、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録は、介護計画に沿ってご本人の思いや気付き、体調の変化等の記録を共有し、毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診や福祉用具の相談等、柔軟な対応に努め、困難と思われる事でも、ニーズには出来る限り添える様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に自治会で整備されている花壇の花や水鳥を見て楽しんだり、近隣の保育園や学校との交流や、地域の理美容等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、週1回の往診の他、日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられる様支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的に来所し、体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中は面会や、家族、病院関係者との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて入居時に重要事項説明書等にて説明を行い同意を得ています。重度化した場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合い支援します。職員のこれまでの経験を活かせるよう、マニュアルの改訂を適宜行い、体制作りに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置し、使用方法や急変時の対応方法についての訓練を行い、すべての職員が実践できるようにしています。急変や事故発生時は、すぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示の下対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年間計画を立て、火災、地震、水害、夜間、防犯を想定した訓練を毎月行っています。総合消防訓練には、消防署、自治会長様にも参加して頂き、運営推進会議でも報告し、地域との協力体制を築いています。また、非常用食料や備品のリストを基に備蓄し、職員全体が把握できるようにしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声かけはさりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安な気持ち等から、同じことを繰り返し尋ねてこられる方には、その都度思いを受け止め、安心できる言葉かけをしたり、希望を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースを大切に過ごして頂けるよう、見守りや声かけをしながら希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合うように声かけ等の支援をしながら、洋服を選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切る、行きつけの理美容室へ出掛ける等、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け等、お一人おひとりの力に合わせて、職員と一緒にして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた食事量、食事形態で提供し、必要な声かけや介助を行い、栄養面では主治医にも相談しています。脱水や熱中症にならない様、水分は必ず声かけをして摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時、ご本人の状態に応じた声かけや介助を行い、歯間ブラシを使用しながら磨き残しの確認をしています。定期的な歯科医の往診により、口腔内の点検や指導をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンに応じて、トイレの声かけや介助を行い、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの好みや状態に合わせて食事や飲料の工夫をし、食事や水分をしっかり摂って頂き、運動や歩行を行うことで、なるべく下剤に頼らないよう、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりのニーズに添うよう、湯の温度や入浴時間の調整を行っています。入浴時は職員とのコミュニケーションの場にもなっています。		
46		0 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に応じて寝具や室温の調節を行い、眠れない方にはお話をお聴きする等、また天気の良い日は日光浴や外気浴をして、安眠の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を把握し、症状の変化に応じて主治医に相談し、調整をさせて頂いています。錠剤・散剤等、ご本人が飲みやすいように主治医に相談し、名前・日付等、声に出して確認しながら服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴等に応じて、盛り付けや洗濯物たたみ、塗り絵や歌、外気浴、散歩等、楽しみごとや役割の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、玄関先での外気浴やホーム周辺の散歩に出掛け、季節毎のドライブやお花見を計画しています。ご本人の希望に添って、ご家族にも協力して頂き、外出できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はご家族が管理されていますが、その方の希望や力に応じて、ご家族との間できちんと説明がなされており、ご本人が納得の行くように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来所が困難なご家族には、電話を掛けて頂けるようお願いする等、ご本人が安心して生活できるよう、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿温計を設置して、エアコンや床暖房、加湿器等で快適に過ごせる様調節し、季節感が感じられる様に、季節の花や作品を飾ったり、七夕やお雛様等、季節の飾りつけをして、居心地よく過ごして頂けるように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で好きなテレビを観たりして一人でゆっくり過ごしたり、食堂で気の合った入居者の方と談話する等、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのある物や思い出のある物等を置いて、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはそれぞれの身体状況に合わせて手すりを設置し、通路は歩行の妨げにならないよう整備して、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援しています。		